

地域社会の発展に向けた積極的な貢献



2006年度の方針

「地域に根ざした企業として、地域の発展とともに歩みたい」という地域共生の考え方をベースに、社会と当社が、相乗効果を得られる文化・地域活動を行うとともに、従業員が会社にとどまらず、社外でも活躍できるよう、ボランティアをはじめとする、社会貢献活動に関する情報発信を行います。



重点取り組み項目	2006年度の主な取り組み
<p>地域事情・特性を考慮した地域イベントなどさまざまな地域活動の実施</p> <p>» P.58</p>	<p>● 地域に根ざした各種地域活動への積極的な実施・参加（こども110番運動、地域との交流イベント開催など）</p>
<p>従業員の社会貢献意識の向上</p> <p>» P.59-60</p>	<p>● 社内ポータルサイト、社内報などによる、社会貢献活動、地域イベント、ボランティア活動などの情報発信</p>
<p>地域活性化の推進</p> <p>» P.61-63</p>	<p>● エネルギー研究開発拠点化計画の推進</p> <p>● 大阪の都市再生活動への貢献</p> <p>● 関西の地域活性化にむけた企業誘致活動の展開</p>

関西電力グループCSR行動憲章

関西電力グループは、地域や生活に密着した事業者として、地域社会の発展なくしては、自らの発展はありえないという認識のもと、地域経済や地域コミュニティの活性化に向けた取り組みを通じて、地域社会の発展へ積極的に貢献します。

企業市民としての社会への貢献

地域や生活に密着した事業者として、各事業所において地域と連携し、地域に根ざしたさまざまな活動を実施しています。

こども110番運動

昨今、子どもたちが登下校時を中心に、被害者となる犯罪や事件が数多く発生しています。そのような状況のなかで全国各地で展開されているのが「こども110番運動」です。

当社はこの運動に、グループ会社や労働組合と連携して参加しています。地域に根ざした事業形態を活かすほか、企業・労働組合が有する関西一円のネットワークを有効に活用して、地域の安心なくらしのお役に立ちたいと考えています。



「こども110番の車」(扇町営業所)



「こども110番のおうち」(滋賀営業所)

地域との交流イベントを開催

地域の方々への日頃の感謝の気持ちを込め、各事業所では、さまざまな交流イベントを開いています。

■ 赤穂さくらまつりの開催(赤穂発電所)

「さくらの発電所」として地元の方々に親しまれる赤穂発電所では、構内200本の桜の花が満開となる毎年4月の第2日曜日、発電所構内の開放イベントとして「さくらまつり」を開催しています。

2007年4月は、このまつりが15回目を、同発電所が運転開始から20周年を迎えることから、発電所員が工夫を凝らし、数多くのイベントやステージショーなどを企画。約4,000人の来場者を迎えました。ステージでは、地元の保育園児の和太鼓演奏やダンススクール生徒によるステージショーなども。地域の多くの方に参加いただくことによって、地元のみなさまとの交流も深まりました。



赤穂発電所「さくらまつり」のようす



地域と交流した環境美化活動(各事業所)

各事業所では、周辺地域の環境美化として、清掃や植樹活動を実施しています。

事業所周辺をはじめ、自治体、自治会など地域の諸団体と連携しながら、観光地、海岸、河川や社会福祉施設などを対象に幅広く清掃活動を行っています。

また、花の種や苗木の配布、公共施設などでの植樹活動のほか、地元の保育園児を招き、地元漁協の協力によって稚魚を放流するなど、交流を深める活動を積極的に実施しています。



地元保育園児といっしょに稚魚を放流(今渡電力システムセンター)



黒部峡谷鉄道のお客さまに花の種を配付(黒部川電力システムセンター)



営業所緑地内で植栽した花を配付(北摂営業所)



春日大社内での清掃を実施(奈良営業所)



はらいど 祓井戸海岸での清掃を実施(御坊発電所)

**ダムに沈んだ村、いつまでも忘れない**  
**——下小鳥ダム湖畔「ふる里の森」——**  
**神通川電力システムセンター**

岐阜県飛騨市(当時古川町)の下小鳥ダムの湖畔に広がる「ふる里の森」公園は、1970年にダム建設によって離村・移住した人たちのグループ「古川町保(ほ)友情会」が、離村10周年にスギを植樹したことがきっかけとなり、その後、本格的に造成され、1992年に完成した公園です。こうして誕生した公園は、友情会の方々やダムを管理する当社神通川電力システムセンター所員が、毎年植樹など整備に携わってきました。こうした活動の記録と水没した保地区の風景を後世に伝えたい——。そのような友情会のみなさまの願いを受け、2006年、当社は冊子づくりに協力させていただきました。



2006年度も「ふる里の森」でヤマザクラを植樹



下小鳥ダム「ふる里の森」公園整備記録

**地域イベントへの運営協力**

地域の祭りやスポーツ大会などのイベントに対して、各事業所の従業員による運営協力を行っています。

**■ 美浜・五木ひろしまラソン大会(美浜発電所・グループ会社)**

風光明媚な若狭路を走るマラソン大会では、1989年の第1回大会から毎年、美浜発電所の所員が交通整理や給水などに協力しています。また、ランナーに気持ちよく走っていただくよう、大会前には発電所員と当社グループの従業員がマラソンコースを清掃し、地域の方々や連携して大会運営のお手伝いを行っています。



給水所でのボランティア活動

大会前のマラソンコースの清掃活動

**従業員も美浜・五木ひろしまラソンに参加**

本大会は、毎年、全国から3,000人程度のランナーが参加しています。当社も第1回から全従業員に参加を呼びかけ、2007年は840人が心地よい汗を流しました。また、家族や職場の同僚らも多数応援に駆けつけ、大会を盛り上げています。  
 ◇第19回大会:2007年5月13日(日)  
 ◇参加人数:3,105人(内当社従業員840人)

なんとしとが  
**■ 南砺市利賀そばまつりで雪像を制作(庄川電力システムセンター)**  
 南砺市(旧利賀村)では毎年2月に利賀そばまつりが開催されます。そのシンボルである雪像を庄川電力システムセンター所員が中心となって制作しています。従業員は勤務終了後にボランティアとして参加。毎回、全国の著名な建造物を雪で再現しています。2006年度は浅草・雷門の雪像をつくりました。地元の方々には、「今年は何ができるの?」と楽しみにしていただいています。



そばまつりのようす

**■ 京都・葵祭の行列に参加(京都営業所)**  
 毎年5月15日には、京都三大祭の一つ、下鴨神社と上賀茂神社の例祭「葵祭」が執り行われます。この由緒ある祭りの行列に、京都営業所所員を中心とした15名がボランティアとして参加しています。2006年度も、古式ゆかしい雅な装束を身にまとい、新緑の都大路を練り歩きました。

**葵祭に参加して**



京都営業所所長室  
 森 雅実

京都営業所では毎年ボランティアとして行列に参加しています。2007年は平日での開催でしたが、所員は意欲的に参加し、当社従業員のボランティア意識の高さをあらためて感じました。私自身は、初めての参加でしたが、京都御所から下鴨神社を経て上賀茂神社まで、当時の衣装を身にまとい練り歩いたことは、大変貴重な経験になりました。これからも積極的に参加していきたいと思っています。



葵祭での行列参加のようす

**かんでんファミリー劇場を開催**

1975年から関西各地で劇団カッパ座による親子のための巡回人形劇を開催しています。電気やエネルギーについて理解を深めていただきたいと、当社従業員も出演しています。2006年度は12カ所で開催し、約1万2,000名のお客さまが来場。出演者と一体となった楽しいひと時を過ごしていただきました。



かんでんファミリー劇場のようす

**アートで広げる障がい者福祉**

**■ 障がい者アート公募展「かんでんコラボ・アート21」**  
 アートで社会と企業をつなごうと開催しているのが、障がい者アート公募展「かんでんコラボ・アート21」です。障がい者アートに詳しい「(財)たんぼぼの家」の協力を得て、毎年関西一円を対象に作品を公募し、600点以上の力作が寄せられます。そのなかから入選作品を表彰し、公開展示していますが、6回目となる2006年度は、障がい者アートをもっと身近に感じていただこうと、関西各地と若狭の7カ所で巡回展示会を開催しました。



2006年度最優秀賞  
 「チンパンジー」  
 川畑 政人 作



公開展示会(梅田スカイビル)

**学生スポーツのさらなる振興**

**■ 関西学生アメリカンフットボールの支援**  
 関西で盛んな学生スポーツのひとつである、アメリカンフットボールを、当社は、1988年から応援しています。毎年春・秋のリーグ戦を「KANDEN FLASHBOWL SERIES」として、関西学生アメリカンフットボールの盛り上げを図るとともにレベルの向上に協力しています。



「KANDEN FLASHBOWL SERIES」

**芸術と文化の花を咲かせたい**

**■ クラシックコンサート**  
 関西の音楽界からの出演を基本に、1998年から本店と各支店などでクラシックコンサートを開催しています。



2006年度のかんでんクラシックスペシャル「オペラへの誘い」

**従業員のボランティア活動を支援**

従業員のボランティア活動を通じた自発的な社会貢献を応援しています。「ボランティア休暇」や「マッチングギフト制度」などを設け、これらを運用するとともに、ボランティア活動についての情報を社内報などで提供しています。

●ボランティア活動支援制度

マッチング・ギフト
認定実績(2006年度) 9件 50万円

従業員が個人として、あるいは職場内での募金活動を通じて、一定の要件を満たす公的団体をサポートする場合、会社からも定められた限度内でその活動を支援する制度。

ボランティア休暇
取得実績(2006年度) 121件 244日

従業員が休暇を取得して、一定の条件を満たす社会奉仕活動を行った場合、年間限度日数の範囲内でその1/2ないし全部を特別休暇として認める制度。

ボランティア休職
認定実績 1992～2006年度で14名が取得

勤続5年以上の従業員が、公的社会福祉機関で社会奉仕活動を長期にわたり継続して行う場合に原則として1年以内の休職を認める制度。ただし、青年海外協力隊としての休職期間は2年6ヶ月。

**ボランティア休職制度を活用して青年海外協力隊で活躍中**

お客さま本部  
 エンジニアリンググループ  
 小滝 啓右

タイ王国ナコンシタマラート県  
 ナコンシタマラート臨海産業高専へ派遣  
 (2006.3.30～2008.3.29)



私は、現在同校において電気科教員として電気工学関係の授業を受け持っています。また、学生のモチベーション向上のため、(株)きんでんのタイ現地法人である「KINDENKO (THAILAND)」とのコラボレーションにより、インターン制度を利用した同法人への学生派遣を実現いたしました。悪戦苦闘の毎日ですが、タイ社会の発展のため、微力ながらも貢献したい、そんな思いで張り切っています。

# 地域の活性化にむけた取組み

当社は地域に根ざした企業として、地域の発展、産業の活性化に寄与し、地域と共に歩んでまいります。

## ■ エネルギー研究開発拠点化計画への協力

### 福井県をエネルギー研究開発の拠点に

2005年3月、福井県の「エネルギー研究開発拠点化計画」が策定されました。当社はこの理念に賛同し、本計画を推進するために、若狭湾エネルギー研究センター（敦賀市）の「拠点化推進組織」に要員を派遣するとともに、推進方針を議論する「拠点化推進会議」に当社社長が委員として参画しています。

また、2006年4月には、原子力事業本部地域共生本部内に「エネルギー研究開発拠点化プロジェクトチーム」（副本部長以下専任9名体制）を新たに設置し、推進体制を強化しました。

### ■ 計画において当社が主体的かつ積極的に取り組んでいる項目

#### 1. 安全・安心の確保

高齢化研究体制／地域の安全医療システムの整備

#### 2. 研究開発機能の強化

関西・中京圏を含めた県内外の大学や研究機関との連携の促進

#### 3. 人材の育成・交流

県内企業の技術者の技能向上に向けた技術研修の実施／県内大学における原子力・エネルギー教育体制の強化／小・中・高等学校における原子力・エネルギー教育の充実／国などによる海外研修生の受入れ促進／国際会議などの誘致

#### 4. 産業の創出・育成

産学官連携による技術移転体制の構築／原子力発電所の資源を活用した新産業の創出／企業誘致の推進

エネルギー研究開発拠点化計画について  
 福井県HP「総合政策部地域づくり支援課」<http://info.pref.fukui.jp/tiiki/>  
 「(財)若狭湾エネルギー研究センター」<http://www.werc.or.jp/>

### “若狭湾新時代”をスタート

財団法人 若狭湾エネルギー研究センター  
 常務理事  
 エネルギー研究開発拠点化推進組織  
 所長  
 来馬 克美 氏



私も拠点化推進組織は、2005年7月に発足してからこれまで、国の競争的資金の獲得による県内企業の研究開発事業の支援や原子力関連業務従事者研修の実施による地元企業の人材育成など、計画の具体化に取り組んできました。2007年度は、引き続き関西電力をはじめ関係各所との連携を強化しながら、国際的な研究機能の集積、アジアの安全技術・人材育成への貢献、地域産業への貢献について、計画のさらなるステージアップを図り、“若狭湾新時代”をスタートします。

### これまでの主な取組み状況

#### ■ 地域の安全医療システムの整備

福井県嶺南地域における医師確保支援策として「医学生への奨学金制度」「研修医師確保支援制度」を創設し、2007年度から制度を開始しています。なお同年3月には、その実施主体として関西電力を中心に「嶺南医療振興財団」を設立しました。また、2006年9月から各発電所に1台ずつ公設救急車と同等の高規格救急車を配備し、緊急時における医療機関への患者搬送体制を整備しました。



嶺南医療振興財団の総会



高規格救急車を配備

#### ■ 県内企業の技術者の技術向上に向けた技術研修の実施

拠点化推進組織が行う研修事業へ、技術研修カリキュラムの作成のほか、当社の原子力研修センターを提供し、講師を派遣するなど協力しています。



原子力研修センターで技術研修を実施

#### ■ 原子力・エネルギー教育の充実

エネルギー出前教室のほか、2006年11月にはブロードバンドを活用した「ライブ配信授業」を美浜町と連携して実施しました。当社PR館「エルどらんど」では次世代層向け実験教室を開設しました。



ライブ配信授業を実施

#### ■ 原子力発電所の資源を活用した新産業の創出

エネルギー関連の技術移転を促進することを目的に設置された拠点化推進組織が運営する「原子力・エネルギー関連技術活用研究会」に参画しています。



活用研究会の分科会にも参加

中長期にわたる地域の発展を念頭におき、地域共生という広い観点から今後とも引き続き、福井県のみならずと連携を十分に図りながら、福井県において原子力発電所を運営している事業者の立場で、拠点化計画の具体化に向けて、主体的積極的に取り組んでいきたいと考えています。

## ■ 地域活性化のための企業誘致活動

### 国内外の企業を関西へ

当社は、地域とともに歩んできた企業として、地域活性化のお役に立つため、2000年から地元自治体や経済界との連携を図りながら、企業誘致活動に取り組んでいます。例えば、関西を特定して進出を検討されている企業には、自治体の優遇制度や産業団地の情報等をご紹介します。また、国内での設備投資をお考えの企業には、関西に目を向けていただくため、アクセスの利便性など多種多様な魅力を説明し、PR活動を積極的に展開しています。



関西での設備投資をご提案

### ■ 情報発信ツール

関西の産業団地に関する情報や自治体の優遇制度をコンパクトにまとめたパンフレット「関西企業立地ガイド」を制作しています。当社ウェブサイト「KANSAI企業立地ガイド」でも日本語と英語で詳しい情報を発信しています。



「関西企業立地ガイド」には自治体の優遇制度も



「KANSAI企業立地ガイド」では関西の産業団地の検索も簡単。英語版の開設で、海外企業の誘致も図る

また、産学連携のほか、自治体の産業振興施策や最新の優遇制度の情報、用地情報などを掲載した情報誌「Community information」を隔月発行しています。

当社本店の3階には、自治体のパンフレットを集めた「企業立地ライブラリー」を開設し、関西進出の際の情報収集などに気軽にご利用いただいています。



本店3階の「企業立地ライブラリー」は、「Community information」は隔月発行、どなたでもご利用いただける

「KANSAI企業立地ガイド」  
<http://www.kepco.co.jp/i-park/>

### 加速する先端産業の集積

尼崎市の当社「尼崎第三発電所跡地」では、松下プラズマディスプレイ(株)がプラズマディスプレイ(PDP)の工場を開設し、2005年9月から生産が始まっています。さらに、その隣接地には、世界最大規模の新工場を建設される予定で、現在は2009年の操業をめざし、建設が進行中です。このように同市の臨海地区は「尼崎21世紀の森」構想と最先端大型工場が調和したエリアに生まれ変わろうとしています。

一方、大阪市住之江区の当社「大阪発電所跡地」には、旭硝子(株)がPDP用のガラス製造工場を建設されるなど、関西エリアでは、薄型テレビ関連をはじめとした先端産業の集積が加速しています。



尼崎市の当社発電所跡地に広がる松下プラズマディスプレイ(株)の新工場



旭硝子(株)のPDP用ガラス製造工場は大阪住之江区の当社発電所跡地に

### 【2006年工場立地動向調査より】 関西への設備投資が活発化しています

2006年の関西エリア(福井県を含む2府5県)での工場立地件数が前年比16.3%増の271件となり、4年連続で増加しました。近畿経済産業局では、各自治体が補助金や税軽減などの手厚い補助策を提供していることが背景にあるとみています。このうち兵庫県が全国トップの115件、滋賀県が44件、大阪府が41件、京都府は30件、奈良県21件、福井県14件、和歌山県6件となっています。



今後も地域の活性化に向け、関西電力グループとしてのノウハウを十分に活用し、企業ニーズを踏まえた「ソリューション型誘致活動」を心がけていきます。

## ■ 関西・大阪の都市再生活動

### 各地のまちづくりプロジェクトに参画

行政や経済団体などと協調し、魅力あふれるまちづくりを推進しています。なかでも、内閣府・都市再生本部が指定する「都市再生緊急整備地域」の重点地域の開発推進や、「大阪花と緑・光と水のまちづくり」など大阪再生に向けた諸活動を中心に、関西・大阪の活性化をめざしています。

**■ 都市再生緊急整備地域の開発推進・大阪北梅田開発の推進**  
大阪北梅田(大阪駅北地区・約24ha)の開発は、「関西に残された最後の一等地」のプロジェクトとして、全国的な注目を浴びています。現在は大阪市策定の「大阪駅北地区まちづくり基本計画」に基づいた開発が進められ、2011年春には第1期先行開発区域のまちびらきが予定されています。

当社は、地域に根ざした企業として、このプロジェクトの推進に積極的に協力しています。



### ・大阪中之島地域の開発

当社の本店が位置する大阪中之島は、大阪市の「東西軸」と「南北軸」が交差し、水都大阪のシンボルアイランドとして、また、大阪国際会議場や国立国際美術館など大阪の文化・国際交流機能が集まった地区として、大きく進化を遂げようとしています。

当地区では、これまででも地区内の企業などによるまちづくり協議が進められてきましたが、2004年4月には「中之島まちみらい協議会」が発足しました。2005年12月には、まちづくりの基本となる「大阪 中之島の都市ビジョン」を策定し、その後は、都市基盤の整備やシティプロモーションなど、多彩な取り組みを推進しています。

同協議会の事務局を務める当社は、これらの活動を通して、今後も魅力あるまちづくりにアクティブに取り組んでまいります。



大阪のシンボルアイランド中之島のまちづくりに参画

### ■ 大阪花と緑・光と水のまちづくり

花・緑・光・水をキーワードとした大阪の都市再生を——。大阪の行政・経済団体などで構成する「花と緑・光と水懇話会」では、こうした目標を掲げ、さまざまな活動に取り組んでいます。

当社は同懇話会に参加し、花・緑・光・水のなかでも特に「大阪光のまちづくり」についての活動に深く関わっています。これからもこれらの活動を通じて、輝きのある魅力あふれるまちづくりを推進していきます。



毎年12月に中之島公園を中心に展開する「OSAKA光のルネサンス」は、2006年で4年目を迎えた



吹いている風の動きを表す関電ビルディングの頂部ライトアップ。環境と共存するビルをめざす。2006年12月には、ビル全体でのクリスマスツリーをイメージしたライトアップ演出を実施



東横堀川では阪神高速道路の橋脚などをライトアップし、光のトンネルを演出(2006年12月)

## 取組みへの評価

従業員の地域共生・社会貢献に対する意識

全従業員を対象に年1回「地域共生・社会貢献」に関する意識調査を実施しております。

〈2006年度結果〉

①従業員の「地域共生」の考え方・目的の理解  
「理解している」……………84.5%

②職場の「地域共生」の考え方の浸透度  
「浸透している、わりと浸透している」……………50.6%

従業員個人の「地域共生」の考え方や目的の理解度は高いものの、職場全体での「地域共生」の浸透度は約50%という結果となっており、今後とも従業員に対し、地域共生に関するさまざまな情報発信を行い、地域共生の考え方をさらに浸透させていく必要があります。

### ■ お客さまからの評価・主なご意見

- 当社の社会貢献活動に対するイメージ  
(お客さまへのアンケート結果から)  
・「社会に貢献している」……………80%
- 広聴システム「ダンボの声」  
[お客さまや地域の声を従業員が収集し、社内で共有するシステム]  
(代表的なご意見から)  
・「関西電力は地域に根ざした企業として、地域貢献に関して、小さなことでも自ら汗を流す姿を見せることが地元からの評価につながる」  
・「地域文化への貢献を継続的に行うことは、非常に厳しい。関西電力だからできるのかもしれないが、すばらしい」

### ■ 専門家の方のご意見

社会福祉法人  
大阪ボランティア協会  
理事・事務局長 早瀬 昇 氏



2006年度の社会貢献活動は、地域に根ざした取組みと従業員の活動支援を重点取組み項目にあげられました。関西一円が事業エリアであるため、それぞれの地域に即した活動を進めることは大変重要です。そのような中、各事業所の地域イベント等への協力等が増え続けていると聞いており、着実に成果が上がっています。また、こうした地域イベントは従業員の皆さんがボランティア活動に参加する機会ともなっていますが、CSRへの関心が高まる中、従業員の活動支援を通じて皆さんの市民的センスがさらに磨かれることを期待します。

一方、関電のユニークな取組みである障がい者アート公募展「かんでんコラボ・アート21」も、公開展示会の来場者数が過去最高に達するなど着実な成果を上げています。大きく期待されている事業ですので、今後のさらなる発展を望んでいます。

## 2007年度以降の方針

当社は、「地域社会の発展なくしては自らの発展はありえない」という考え方をベースに、まちづくりなどの地域プロジェクトから地域が実施する行事への協力や障がい者福祉、地域の文化支援に至るまで多様な活動を行っています。

今後とも、地域事情・特性に応じた地域社会への貢献や地域活性化のための取組みなどを地域のみならずと連携し、進めてまいります。

また、従業員は、当社のボランティア活動支援制度を活用しながら、単に企業人というだけでなく、地域社会の一員として、地域イベントなど各種ボランティア活動に取り組んでいるところです。今後も、従業員の社会貢献意識をさらに浸透させるため、社内ポータルサイトや社内報などを活用してさまざまな情報を発信していきたいと考えています。

関西電力株式会社  
執行役員  
地域共生・広報室長  
川邊 辰也

